



平成27年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年7月28日

上場会社名 キーコーヒー株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 2594 URL <http://www.keycoffee.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 柴田 裕  
 問合せ先責任者 (役職名) 財務部長 (氏名) 橋口 芳久 (TEL) 03-3433-3311  
 四半期報告書提出予定日 平成26年8月8日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年3月期第1四半期の連結業績 (平成26年4月1日～平成26年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第1四半期	13,878	△0.6	481	△34.6	626	△25.6	354	△36.3
26年3月期第1四半期	13,957	△0.5	736	72.9	842	70.7	556	123.3

(注) 包括利益 27年3月期第1四半期 523百万円(△2.8%) 26年3月期第1四半期 538百万円(168.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第1四半期	15.62	—
26年3月期第1四半期	24.54	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年3月期第1四半期	48,238	36,392	73.2
26年3月期	47,553	36,047	73.5

(参考) 自己資本 27年3月期第1四半期 35,295百万円 26年3月期 34,970百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	7.00	—	8.00	15.00
27年3月期	—	—	—	—	—
27年3月期(予想)	—	8.00	—	8.00	16.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成27年3月期の連結業績予想 (平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	54,800	2.2	1,300	△16.0	1,700	△12.4	1,000	△2.6	44.08

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
新規 社(社名) 、 除外 社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料の4ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	27年3月期1Q	22,689,000株	26年3月期	22,689,000株
② 期末自己株式数	27年3月期1Q	7,945株	26年3月期	7,945株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	27年3月期1Q	22,681,055株	26年3月期1Q	22,681,055株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 .....	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	4
3. 四半期連結財務諸表 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	10
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	11
(継続企業の前提に関する注記) .....	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	11
(セグメント情報等) .....	12

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年6月30日までの3ヶ月間）におけるわが国経済は、政府による経済政策や金融政策により緩やかに回復の兆しが見られたものの、平成26年4月に実施された消費税増税前の駆け込み需要による反動減の影響等により厳しい状況が続きました。

コーヒー業界におきましては、業績に大きな影響を及ぼすコーヒー生豆相場が本年初頭から高騰し、3月には1ポンドあたり200セント台を突破するなど高値圏を推移しており、円安の進行による輸入原材料の価格上昇や消費税増税に伴う消費マインド減退、原油価格の上昇の懸念など、先行き不透明な状況が続いております。

このような状況の下、当社グループはコーヒーの持つ魅力を生活者にお届けし続けるという企業使命を果たすため、「品質第一主義」の経営理念に基づいて、「ブランド強化」、「収益力の強化」及び「グループ連携強化」を3つの柱とし、新たな事業領域の開拓、生活者のニーズにお応えする新商品の開発やお取引先との絆を深める企画提案型の営業活動を継続して行いました。

また、新橋と虎ノ門を結び、官民一体となって日本のシャンゼリゼ通りを目指す新虎通りが3月末に開通し、当社は一味違うおいしいコーヒーを提供するカジュアルカフェ「KEY'S CAFE - CLASSE - (キーズカフェ クラッセ)」を、株式会社アマンドはクールな癒しのスポット「ALMOND FROZEN RING Cafe(アマンド フローズンリングカフェ)」を6月にそれぞれ新虎通り沿いに出店しました。

海外においては、インドネシア・南スラウェシ州（スラウェシ島）のマカッサル市内に、インドネシア国内での「トアルコ トラジャコーヒー」のブランド訴求を目的とし、グループ間の経営資源を活かしたコーヒーショップ「TOARCO TORAJA COFFEE」を6月に出店しました。

この結果、当社グループの当第1四半期連結累計期間の売上高は、138億78百万円（前年同期比0.6%減）、営業利益は4億81百万円（同34.6%減）、経常利益は6億26百万円（同25.6%減）となりました。また、四半期純利益は3億54百万円（同36.3%減）となりました。

セグメントの営業概況は次のとおりであります。

#### (コーヒー関連事業)

業務用市場では、「トアルコ トラジャ コーヒー」や公益社団法人氷温協会の2013年度「優秀技術賞」を受賞した「氷温熟成珈琲」など差別性の高いプレミアムコーヒーの拡販活動を推進しました。また、お取引先への支援策として、「カレーフェア」を実施するとともに、「シユクランジュフルーツグラノーラのチーズケーキ」などの新商品を発売しました。

家庭用市場では、大容量レギュラーコーヒーのカテゴリーに「FP（フレキシブルパック）グランドテイスト」シリーズ（4アイテム）、簡易抽出のカテゴリーには、コーヒー生豆からカフェインを97%カットした「D0（ドリップオン）カフェインレスコーヒー」を、インスタントミックスタイプのカテゴリーには、スティックタイプの新商品「アイス カフェ・オ・レ」、「フルーティーパレット バラエティパック」をそれぞれ投入しました。ギフト商品では、「天然水プリズマ飲料ギフト」、「氷温熟成珈琲アイスコーヒーギフト」など人気の飲料ギフトを中心に全35アイテムをラインアップしました。

この結果、当第1四半期連結累計期間におけるコーヒー関連事業の売上高は110億99百万円（前年同期比4.4%減）、営業利益は5億15百万円（同31.4%減）となりました。

## (飲食関連事業)

株式会社イタリアントマトでは、「COLD PASTA FAIR」などのメニューフェアを実施しました。また、「国内は充実」「海外は拡大」の方針に加え新業態の店舗の開発を促進することとし、国内では東京駅一番街に、利用シーンにあわせて上質なおいしさを提供する新業態店舗「Tokyo Station Cafe & Bar Fari-beurre (ファリ・ブール)」などの出店を行い、海外ではASEAN地域での拡大を進め香港に「カフェ香港フォーチュンシティワン」など、国内外に7店出店する一方、不採算店2店を閉鎖し、店舗数は307店(直営店82店、FC店225店)となりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間における株式会社アマンドを含めた飲食関連事業の売上高は15億42百万円(前年同期比4.1%減)、営業利益は8百万円(同83.9%減)となりました。

## (その他)

平成26年2月に連結子会社となったhonu加藤珈琲店株式会社を加えたその他事業の売上高は12億36百万円(前年同期比66.7%増)、営業利益は1億4百万円(同26.4%増)となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

## (資産)

総資産は前連結会計年度末に比べて6億84百万円増加し、482億38百万円となりました。

流動資産は4億92百万円増加し、245億90百万円となりました。これは受取手形及び売掛金の増加(2億56百万円増)、商品及び製品の増加(2億43百万円増)などによるものであります。

固定資産は1億92百万円増加し、236億47百万円となりました。償却が進んだことにより、有形固定資産は57百万円、無形固定資産は31百万円減少しました。投資その他の資産は投資有価証券の増加(2億42百万円増)などにより2億81百万円増加しました。

## (負債)

負債は前連結会計年度末に比べて3億40百万円増加し、118億46百万円となりました。

流動負債は前連結会計年度末に比べて2億63百万円増加し、93億60百万円となりました。これは支払手形及び買掛金の増加(7億8百万円増)などによるものであります。

固定負債は繰延税金負債の増加(91百万円増)などにより76百万円増加し、24億85百万円となりました。

## (純資産)

純資産は前連結会計年度末に比べて3億44百万円増加し、363億92百万円となりました。これは利益剰余金の増加(1億76百万円増)、その他有価証券評価差額金の増加(1億55百万円増)などによるものであります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成27年3月期の業績予想につきましては、現時点において平成26年5月12日に公表致しました業績予想の変更はございません。

## 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

### (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

### (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

### (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計方針の変更

(退職給付に関する会計基準等の適用)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。)を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて当第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更しております。割引率の決定方法についても、従業員の平均残存勤務期間に近似した年数に基づく割引率から、退職給付の支払見込期間及び支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法へ変更いたしました。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当第1四半期連結会計期間の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。

この結果、当第1四半期連結会計期間の期首の退職給付に係る資産が0百万円増加、退職給付に係る負債が4百万円増加し、利益剰余金が2百万円減少しております。なお、損益に与える影響は軽微であります。

## 3. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	8,951	9,089
受取手形及び売掛金	7,276	7,533
有価証券	4,788	4,787
商品及び製品	1,214	1,457
仕掛品	142	156
原材料及び貯蔵品	1,037	981
繰延税金資産	377	198
その他	337	403
貸倒引当金	△28	△17
流動資産合計	24,098	24,590
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	5,804	5,788
機械装置及び運搬具（純額）	1,868	1,792
土地	6,334	6,334
その他（純額）	784	819
有形固定資産合計	14,792	14,734
無形固定資産		
のれん	442	421
その他	340	330
無形固定資産合計	783	752
投資その他の資産		
投資有価証券	5,639	5,882
長期貸付金	136	129
繰延税金資産	19	31
退職給付に係る資産	4	4
差入保証金	1,755	1,782
その他	585	589
貸倒引当金	△261	△259
投資その他の資産合計	7,879	8,160
固定資産合計	23,455	23,647
資産合計	47,553	48,238

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,302	6,011
短期借入金	105	97
未払金	1,565	1,370
未払法人税等	427	94
賞与引当金	636	313
その他	1,058	1,473
流動負債合計	9,097	9,360
固定負債		
長期借入金	94	87
繰延税金負債	132	224
再評価に係る繰延税金負債	557	557
退職給付に係る負債	753	739
資産除去債務	265	264
その他	605	612
固定負債合計	2,408	2,485
負債合計	11,506	11,846
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	4,628	4,628
資本剰余金	5,037	5,037
利益剰余金	28,077	28,253
自己株式	△13	△13
株主資本合計	37,731	37,907
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	643	798
土地再評価差額金	△3,623	△3,623
為替換算調整勘定	△4	△3
退職給付に係る調整累計額	224	217
その他の包括利益累計額合計	△2,760	△2,611
少数株主持分	1,076	1,096
純資産合計	36,047	36,392
負債純資産合計	47,553	48,238



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
売上高	13,957	13,878
売上原価	9,636	9,607
売上総利益	4,321	4,270
販売費及び一般管理費		
広告宣伝費及び見本費	230	303
荷造運搬費	275	346
車両費	124	135
貸倒引当金繰入額	10	4
役員報酬	89	82
給料及び賞与	1,280	1,324
賞与引当金繰入額	177	203
退職給付費用	127	40
福利厚生費	244	231
賃借料	279	291
減価償却費	78	90
消耗品費	98	113
研究開発費	48	51
その他	520	572
販売費及び一般管理費合計	3,585	3,789
営業利益	736	481
営業外収益		
受取利息	7	5
受取配当金	60	87
持分法による投資利益	19	16
受取家賃	11	11
その他	12	33
営業外収益合計	111	154
営業外費用		
支払利息	2	2
為替差損	2	4
その他	1	1
営業外費用合計	5	9
経常利益	842	626

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
特別利益		
投資有価証券売却益	102	-
受取賠償金	6	5
特別利益合計	109	5
税金等調整前四半期純利益	951	632
法人税、住民税及び事業税	198	78
法人税等調整額	163	178
法人税等合計	362	257
少数株主損益調整前四半期純利益	589	374
少数株主利益	32	20
四半期純利益	556	354

## 四半期連結包括利益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	589	374
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△54	155
為替換算調整勘定	3	0
退職給付に係る調整額	-	△7
持分法適用会社に対する持分相当額	0	△0
その他の包括利益合計	△51	148
四半期包括利益	538	523
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	505	503
少数株主に係る四半期包括利益	32	19

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	951	632
減価償却費	279	299
投資有価証券売却損益(△は益)	△102	-
受取賠償金	△6	△5
貸倒引当金の増減額(△は減少)	7	△12
賞与引当金の増減額(△は減少)	△312	△323
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△13	△12
受取利息及び受取配当金	△68	△92
支払利息	2	2
持分法による投資損益(△は益)	△19	△16
売上債権の増減額(△は増加)	△740	△255
たな卸資産の増減額(△は増加)	△197	△198
仕入債務の増減額(△は減少)	1,199	708
未払金の増減額(△は減少)	△203	△171
その他	187	374
小計	963	927
利息及び配当金の受取額	61	86
持分法適用会社からの配当金の受取額	11	11
利息の支払額	△2	△3
受取賠償金の受取額	3	3
法人税等の支払額	△621	△423
営業活動によるキャッシュ・フロー	415	601
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	-	△1,000
定期預金の払戻による収入	-	1,000
有価証券の取得による支出	△1,500	△3,000
有価証券の償還による収入	1,500	3,000
投資有価証券の取得による支出	△567	△2
投資有価証券の売却及び償還による収入	380	10
有形固定資産の取得による支出	△278	△230
その他	△60	△39
投資活動によるキャッシュ・フロー	△526	△261
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	19	0
短期借入金の返済による支出	△199	△4
長期借入れによる収入	40	-
長期借入金の返済による支出	△28	△14
配当金の支払額	△130	△160
その他	△22	△18
財務活動によるキャッシュ・フロー	△322	△197
現金及び現金同等物に係る換算差額	3	△5
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△429	137
現金及び現金同等物の期首残高	10,270	7,138
現金及び現金同等物の四半期末残高	9,840	7,276

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

当第1四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年6月30日)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第1四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年6月30日)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

前第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	コーヒー 関連事業	飲食 関連事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	11,606	1,609	13,216	741	13,957	—	13,957
セグメント間の内部売上高 又は振替高	114	0	114	298	413	△413	—
計	11,721	1,609	13,331	1,040	14,371	△413	13,957
セグメント利益	750	55	806	82	889	△153	736

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、飲料製品製造事業、オフィスサービス事業及び通販事業、運送物流事業、保険代理店事業等を営んでおります。
2. セグメント利益の調整額 △1億53百万円には、セグメント間取引消去 1百万円、棚卸資産の調整額 8百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用 △1億62百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第1四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年6月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	コーヒー 関連事業	飲食 関連事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	11,099	1,542	12,642	1,236	13,878	—	13,878
セグメント間の内部売上高 又は振替高	116	0	117	311	428	△428	—
計	11,216	1,543	12,759	1,547	14,307	△428	13,878
セグメント利益	515	8	524	104	628	△146	481

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、飲料製品製造事業、オフィスサービス事業、通販事業、運送物流事業、保険代理店事業等を営んでおります。
2. セグメント利益の調整額 △1億46百万円には、セグメント間取引消去 △9百万円、棚卸資産の調整額 13百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用 △1億50百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。